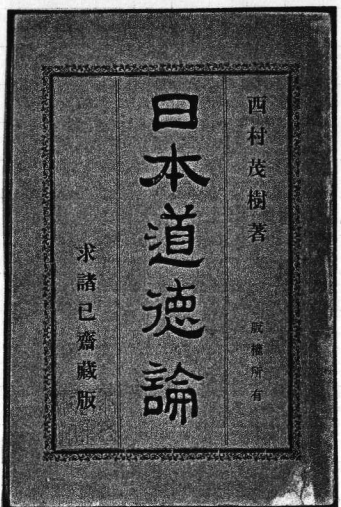


西村茂樹 （西村茂樹） 教育家、文學博士。文政十一年（二月）一白江生れ。明治二十五年八月十八日歿（二八八一—一九〇二）。諱鼎、字芳在・重羅、幼名平太郎。號庸齋、庸齋陳人、樸堂、泊翁、泊翁道人、西郵郎、西郵中人樹等。書法倉藩士。儒學、洋學を修め、明治五年東京に移居。翌年森有禮等と明治八社を興す。のち待講、文部省編輯局長、宮中顧問官、華族女學校校長、貴族院議員等歴任。この間日本弘道會を創設し、皇室中心主義の道徳思想を振興。

著書『民選議院集説』（合著・櫻井忠徳編、明治七年七月奥田氏蔵版、文寶堂）、『小學修身訓・波號』全二冊（改正・明治十四年四月愛知・片野東河郎翻刻出版、十六年八月十六日百川治兵衛翻刻出版）、『日本道徳論』（明治二十年四月西村金治刊。再刊・二十一年二月十六日求諸已齋蔵版、哲學書院發賣。大正二年九月一日、のち十五年五月十五日日本弘道會。吉田熊次校・昭和十年一月、二十五日岩波書店「岩波文庫」、『讀書文算』（明治二十六年七月）二十日日本弘道會蔵版、博文館）、『付識録』（明治二十二年八月四日富山房）、『國史教育論纂』（合著・堀江秀雄纂、



明治二十五年七月）二十一日金港堂書籍株式會社）、『儒門精言』泊翁全集・第一集』（輯、内田周平校點、明治二十六年九月二十日西村家

圖書部)、『治翁叢書』(日本弘道會編、明治四十二年五月、二十八日)

日本弘道會)、『弘道の道』(日本弘道會意)(大正十五年五月十日)

五百年日本弘道會)、『西村道徳問答』(松平直虎編、昭和十一年六月)

十二百年日本弘道會)、『道徳教育講話』(同編纂、昭和十二年五月十日)

五百年日本弘道會)、『治翁修養訓』

(同編、昭和十四年八月、二十日修徳

園、二谷會書局刊賣)、『弘道再考』

(吉田熊次公著、昭和十二年二月一

日日本弘道會編刊)、『西村茂樹先

生語録』(昭和二十一年九月十日自

本弘道會編刊)等。

文獻、高木八太郎著『治翁西村先生』(大正二年二月十九日日本弘道

會有志青年部編刊)、『治翁西村茂樹の對する感想』(昭和八年八月

一日日本弘道會編刊)、『足る栗園著『哲人西村治翁』(昭和九年九月

一日文陽社)、『海後京臣著『西村茂樹 杉浦重剛』(昭和十二年一月二

十日北海道出版社)、『日本教育家文庫』(石渡敬編著『現代の生きざら西

村茂樹』(平成十二年十月千葉・佐倉市)等。

